

## 事務所だより4月

2022(R4)

Vo.145

### I 2022年の確定拠出年金はどう変わる？

2022年4月より確定拠出年金制度が改正されます。高齢労働者や中小企業など多くの企業や個人が活用できるよう見直しがされました。具体的な改正ポイントについてご紹介いたします。

#### ◆企業型DC(確定拠出年金)とiDeCoの加入可能年齢が拡大に

現在、企業型DCに加入できるのは65歳未満の方ですが、5月から70歳未満へ拡大されます。ただし、企業によって加入できる年齢などが異なります。また、iDeCoへの加入は現在60歳未満の公的年齢の被保険者ですが、こちらも5月から65歳未満に拡大されます。

#### ◆受給開始時期の上限が75歳まで延長に

4月から企業型DCとiDeCoの老齢給付金の受給開始時期を60歳(加入者資格喪失後)から75歳までの間で、ご自身で選択することができるようになります。

#### ◆企業型DC加入者のiDeCoへの加入条件の緩和

現在、企業型DCの加入者がiDeCoに加入できるのは、労使の合意があり、なおかつ事業主掛け金の上限を引き下げた場合に限定されていました。10月からは、この条件を満たさずに原則加入できるようになります。ただし、企業型DCとiDeCoのどちらも上限まで拠出できるわけではありません。また、加入している企業型DCで加入者本人が掛け金を上乘せして拠出している場合は、iDeCoに併せて加入することはできません。

### II 「ランサムウェア」対策をしておきましょう

「ランサムウェア」は、システムに侵入して、データを暗号化、閲覧・編集権限を剥奪するなどにより、データを使用不能にし、その復旧の見返りとして身代金を要求するウィルスです。身代金の支払いに応じなければデータを公開するとの脅迫がなされることもあります。この被害は深刻化しており、この1年間で被害相談件数が増加するとともに、中小企業でも被害件数が増加しています。ランサムウェアに必要な対策についてご紹介します。

#### ◆必要なランサムウェア対策

「ランサムウェアの対象は大手企業」と思われがちですが、中小企業でも被害が増加しています。その一因と言われるのが、中小企業では、セキュリティ強化のための予算や人材を確保しづらく、ランサムウェアが侵入しやすい状況となっていることです。対策として最も有効なのは、セキュリティソフトの導入です。ただし、セキュリティソフトは未知のものには機能しませんので、定期的にアップデートを行きましょう。また、ライセンスの期限にも注意が必要です。ランサムウェアではデータが暗号化等されることにより、業務に必要なデータが使用できなくなって業務に支障が生じることも考えられます。万が一の事態に備えて、重要なデータは常にバックアップを取っておくことも大切です。

### 連載コラムNo. 17

#### 労働時間の把握と記録

労働時間は会社にとって、重要事項のひとつです。効率的に仕事を進めていく上で労働時間の把握は必須です。従業員の労働時間を記録し、働き方を改善していきましょう。

#### ◆労働時間の把握と記録の方法は？

労働時間の範囲についてですが、これは従業員が働く時間だけでなく、それに付随する、仕事の準備や片付けの時間も入ります。また、実際に作業はしていない待機時間や、仮眠時間も会社の監督・指揮命令下であれば労働時間となります。労働時間の状況の把握と記録は労働安全衛生法66条の8の3で義務付けられており、タイムカードやICカードなどの客観的な記録による方法や、経営者が自ら従業員の始業と就業を確認して記録する方法等を原則としています。労働時間は1分単位で把握しておく必要がありますが、時間外労働の場合は事務手続きの簡便化上、1ヶ月の合計に1時間未満の端数がある場合に30分未満を切り捨て、それ以上を1時間に切り上げることは労働基準法違反として取り扱わないこととなっています。



桜事務所LINE公式アカウント

お友達登録して

スタンプ送ってください!!

トークお気軽になんでもお問い合わせください

